

ポイント：保育者一人一人が自分らしさを発揮し、成長し合える研修環境を創る

【幼児教育・保育の課題】

- ・ 保育・幼児教育の質の格差（民官学）
- ・ 乳幼児の育ちの理解の偏り（教育現場、保護者、地域社会 等）
- ・ 保育者のリフレクション力の弱さ（誰のための、何を育むための保育か）

【フィールド研修における目標】

- ① 保育・幼児教育の本質と価値を再確認するー保育は主体的・対話的で深い遊び
- ② 同僚性を高め、補い合える自律的専門家を目指す

【方針・計画】

① 公開園の質の向上のプロセスにスポットをあて、モデルではなくどのような理論と実践のもとで改革がなされたのかアイデアや試行錯誤の具体を共有

② 問題や課題を指摘して反省・改善を促す研修から

⇒ 自らの経験を基盤に『問い』を持ち、対話と気づきによる主体的な研修へ

〈フィールド研修〉 往還型研修 県内5園×同園3回 公開保育+ワークショップ



【往還型研修】

【公開園】

- ① 変革のプロセスを具体的に発信
- ② 園の負担を最小限
- ③ 『問い』と参加者の質問からリフレクション

経験のミックスから課題の把握

【参加者】

- ① 語り合う喜びの共有
- ② 問いや他者の視点から自身の視点の揺らぎ
- ③ 実践シートでリフレクション

経験のミックスから課題の把握

【取組の内容】 自由度が高く、園種・校種を超えて強み・良さを活かしあえる研修体制



ラフに公開保育

- ・ 当日資料は最低限
- ・ 日頃のほぼありのままの取組を掲示(園内研修 KJ、ドキュメンテーション等)



助け合い補い合う研修

- ・ ファシリテーターを他園に依頼
- ・ 参加者も一緒に研修を創る一員



効果抜群ワークショップ

- ・ 公開園の効果的な研修方法を再現
- ・ 他者の視点を通して新たな気づき



実践シートで保育力↑

- 公開保育をヒントに参加者が新たな取り組みをシートにまとめ第2,3回目で発表

【取組の成果】 アンケートの声(概ね高評価)

【参加者】 目から鱗・刺激的・3回の研修で確実に保育が変わった・分かりやすい・実践に生かせる・園内研修でのヒントになった・保育者同士での会話が増えた・公開園の努力を知り火がついた

【公開園】 改めて自園の保育を語ることで解説力のアップに繋がった・質向上には大変さもあるが励みとなり専門性に誇りがもてた・多様な見方・考え方が参考になった

- ・ 小中の教員参加により乳幼児期と学童期の子どもの発達理解、AL理解の入り口に。
- ・ 地元紙に「保育の質」に関する記事が掲載された(日頃は待機児指導解消、虐待)

【次年度の課題】

- ・ 研修の本質理解の多様な足場創りの必要性
- ・ **今年度の取組を点とし線から面へ広げる取り組みの構築**

(幼児教育コーディネーター 関)



園長・主任・小中教員によるパネルディスカッション

